

単位数	2	学科（型） 学年	工業科 2	教科書 副教材等	Creative Living『家庭基礎で生活をつくろう』（大修館書店） 家庭科ノート・調理実習ノート（愛媛県高等学校家庭科研究会）
学習目標		・生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得し、自立した生活ができるようにする。 ・実習を通して「ものづくり」の楽しさを体感し、家庭科への興味・関心を持つ。 ・授業で得た知識・技術を家庭生活や地域社会の充実向上に活かし実践的態度を育てる。			
学期	学習内容			学習のねらい	
1	第2章 人生をみつめる ・家族と家庭 ・これからの家庭・社会 第3章 子どもを育てる ・乳幼児の心身の発達 ・子どもの生活 期末考査 第4章 高齢期を生きる ・高齢者の生活と福祉			・家庭科の学習を実践しようとする態度が大切なことを理解する。 ・多様な家族が存在することを学び、家族のあり方や家庭の役割を理解し、自分のライフコースを描くことができる。 ・家族に関する法律について理解し、社会制度としての家族について考える。 ・子どもの時期の重要性について理解する。 ・子どもの生活と家族の果たす役割を理解する。 ・高齢者の生活や福祉を学び、家族の果たす役割を考えることができる。	
2	第7章 食生活をつくる ・食生活のなりたち ・栄養と食品 ・食品の選び方 ・献立と調理（調理実習） 第8章 衣生活をつくる 期末考査			・現代の食生活について学び、問題点を認識する。 ・栄養素の種類や働きを学び、健康を考えた食品の摂り方ができるようにする。 ・1日に必要な栄養素や食品を知り、理想的な食生活を考えることができる。 ・調理の手順や調理方法を学び能率よく実習ができる。 ・衣服とその材料の性質や機能を理解し、自らの衣生活を快適なものにする知識と技術を養う。	
3	第9章 住生活をつくる ・住生活を考える ・これからの住生活 第6章 経済生活をつくる ・私たちの暮らしと経済 ・私たちの消費生活と環境 学年末考査			・住まいの役割や重要性を理解する。 ・快適な室内環境確保の為の知識を身につけ、健康な住まいや住生活のありかたを考える。 ・家庭経済は社会全体と密接に関係していることを理解し、主体的に判断し行動できるようにする。 ・適切な意思決定や消費行動によって意見を表明し、行動することが消費者の責任であることを理解する。	
評価の観点		内 容			
知識・技能		食と健康、子供の発達、衣服素材など生活の中の科学を学び、生活を再発見することで、向上していく為の知識を身につける。基本的な調理技術や被服技術など様々な生活技術を身につける。			
思考・判断・表現		家庭科での学習を自らの生活の中に応用し、実践する力をつける。			
主体的に学習に取り組む態度		各ライフステージにおける現代の特性を知り、将来の自らの生活と重ねることで家庭科学習への関心を深め、学び、実践しようとする意欲へ繋げていく。			
評価方法	定期考査（各学期末）、学習態度、実習態度、実習作品、ホームプロジェクト、ノート、課題提出等を含め、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価する。				
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項					
・授業中のノートは確実に記録しましょう。 ・実習やグループワークには積極的に参加しましょう。 ・私たち一人ひとりが自己実現に向かうには、健康な心身が何よりも必要です。健康を維持、増進する為には、食生活をきちんとおこなうことだけでなく、衣生活や住生活を整えることも大切です。その為に必要な知識や技術を身につけ、日々の生活の中で実践していきましょう。 ・課題の期限は厳守しましょう。					